

健やかほうふ21計画（第2次）推進委員会 平成29年度第2回 会議録

1 日時	平成30年2月1日（木）	14時～16時
2 場所	防府市保健センター	
3 出席者	【委員】 藤村委員、山本委員、松浦委員、豊田委員、松田委員、西村委員、中村委員、防川委員、寺内委員、田中委員、宇野委員、池永委員、藤元委員、田中委員、畦森委員、東福委員、松林委員 ※欠席：右田委員、山本委員、橋本委員、岩城委員、山崎委員（事務局） 林健康福祉部長、藤井健康福祉部次長、工藤健康福祉部次長兼健康増進課長、小野技術補佐、原田係長、鳥飼、島、渡邊、齊藤、角、林、藤原、大藤、坂本	
4 傍聴者	0名	
5 議題	(1) 計画周知報告 (2) 今後の計画推進について (3) 部会（子ども世代、働く世代、高齢世代） 「基本理念の実現のために、推進委員としてできること」 (4) 意見交換 (5) その他	

1 開 会

2 健康福祉部長 挨拶

例年になく寒い日が続き、県下全域、インフルエンザ警報が発令されている。委員のみなさまにおかれましても咳エチケット、マスク・手洗いの励行をお願いしたい。

今年度は、第1回推進委員会と11月に部会を開催し、取組の方向性、推進活動の進捗状況、右田先生から歯と口の健康について講話をいただいた。

本日は周知活動の状況や、今後推進委員の皆さんの取組などを御協議いただきたい。忌憚のない意見をいただき、「健やかなまちほうふ」の理念を目指し、推進について御協議いただきたい。

【事務局】

会議欠席のお知らせ

3 議 事

議事（1）計画周知報告

【事務局説明】 資料1、「健やかほうふ21計画（第二次）」の冊子を基に説明

【議長】

周知報告をみると、様々な場で動きがあるようである。
質問がなければ議事2にうつる。

議事（2）今後の計画推進について

【事務局説明】 資料2に基づき説明

【議長】

事務局より、計画推進にあたって目指す姿の確認と、推進の考え方について説明があった。木を一人ひとりに見立てて、森を防府市全体に見立て、とても分かりやすいパワーポイントだった。何より大事なのが根っこの部分だと思った。土壌が防府市・行政の方といわれたが、根っこの部分が「みんなでつながり思いやる」という基本理念の部分になるのだと私は考えながら見ていた。

質問がなければ、議事3にうつる。

議事（3）部会

【議長】

3つの部会にわかれ話し合いとなる。子ども世代、働く世代、高齢世代の各部会で、話し合っていく。進め方について、事務局より説明をお願いする。

【事務局説明】

部会内容、進め方について説明ののち、3つの世代に分かれて話し合う。

議事（4）意見交換

【議長】

本日の議事や部会での意見交換により、気づきや今後の推進に対するご意見等、各委員より一言ずつお願いしたい。

～働く世代～

【D委員】

部会で自分の活動を振り返り、所属している団体には伝えているが、仲間に伝えたことがその先の市民に伝えられていないということが見えてきた。仲間に伝えたからよい訳ではなく、自分でもその先ができていなかったと振り返ることができた。継続し、少しずつ、1回目、2回目、3回目と回を重ねていこうという自分の気づきにもなった。また、自分のために取組んだことを継続することで、市民や友達、所属している団体にも経験を生かして伝えていけると気づけた。部会の話し合いは、自分のためになり、今からどのように目標を持っていけばよいか気づけた。

【H委員】

心の健康を守ることや心の問題への対応は、家庭でも職場でも地域でも大事なことと思っている。中でも職場は人が資本であり、社員の心や体の健康なくして繁栄はありえない。企業が取り組むべきことの1つだと思っている。メンタル不調者を減らすことが離職者を減らすことにも繋がるのではないか。特に市内企業の90%以上を占める小規模事業者に、どのようにアプローチしていけばよいのかを、これから検討すべきではないか。そこで、商工会議所と保健センター、もしくはこの会と一緒に心のセミナーやゲートキーパー養成講座などを開催してはどうかと思っている。やはり心の問題は皆で取組んでいかないといけないとても重要な問題だと思う。

【O委員】

私たちの団体は15支部あり、支部長会の時に私は具体的な復伝をしている。各支部長が各地区の料理教室等で、必ずこのように伝えて欲しいとお願いしないといけないと思っている。料理教室は参加者が親子の時と、高齢者の時がある。親子料理教室の時は子どもがたくさんいるため忙しく、気になる世代の若い母親に具体的に話すことができない。若い母親が来ている大事な場であり、その機会に伝えたいと思うが、なかなか時間がとれない。今後も、各支部長へ具体的に伝えていきたい。

【R委員】

基本理念の実現のために1本1本の木が森になるという説明がわかりやすかった。その森の色がきれいな緑色であり、生き生きと茂った森になれるようにそれぞれの取組をつなげ、基本理念に向けていけるように、行政として支援をしていかないといけないと感じた。中間評価が32年度である。どのように周知をし、がんばっていくか、中間評価はすごく大事である。最後の37年度評価に向け、私たち行政も支援できる部分がないか、持ち帰り皆に伝えてがんばっていききたいと思う。

【S委員】

部会で振り返り気がついたことは、公募と言いながら自分が所属している団体で組織的に話はしていないが、その中の一部の人には色んな話をしながら伝えている。それが実際に波及しているのか、他の人に伝わっているかは分からないが、今後機会があれば団体を通じて、事務局に説明をお願いするかもしれない。

【議長】

意外と医者是不養生というが、開業医が健診をどの程度受けているか私もわからない。大きな病院の医師は健診（検診）を受けていると思うが、個人開業医の先生は全くわからない状況の中にあり、これではいけないと思った。従業員はもちろん、患者、家族を通して少しずつ周知徹底できればと思う。

また、健やかほうふ21計画があることを医師会の先生があまり知らない現状にある。そこで医師が多く参加する診療報酬改訂の説明会の場で、事務局に計画の説明に

来ていただきたいと思っている。

～子ども世代～

【J委員】

保育園としては親御さんにこちらの気持ちが伝わりにくいと感じている。子ども達には、基本的な生活習慣を身につけてもらい、自分の体は自分で守る、自分の責任で生きていくという強いところを育てられたらいいと思う。園でも保育協会でも、お母さん方にもっとそういうことをしなければいけないと思っている。現在、家庭で生活習慣を身につけるのがなかなか難しく、御両親が働く家庭がとて多いため、保育園、幼稚園の責任が重くなったと強く感じている。これを機会にがんばらないといけないと再認識した。

【K委員】

私は推進委員4年目となり、一通り所属する団体の皆に伝え、そこから広げるようにしている。一応取組んでいるが果たして本当に伝わっているか検証がまだなので、そこをしっかりしたい。具体的に伝える内容を示していく必要があると思っている。それが今後がんばらないといけないことだと思っている。継続してみないと、その成果がわからない。私も推進委員会に参加して初めて、防府市の現状に一市民としても唖然とした。その現状が平成37年に変わっていかねばいけないと思う。その手助けが私たちはできるので、しっかりしないといけないと思った。

【P委員】

母推の主な仕事の中に家庭訪問があり、年間4000件近く実施している。健康情報やチラシを持参し、家庭訪問をしている。もっと上の段階にいかないといけないと思ったが、今まで理事会で健やかほうふ21計画についてふれたことがない。今までやることの計画で手一杯であった。今から上のステップにあがるためにも今度は理事会で健やかほうふ21計画について、まず保健師に話をしてもらいたいと思っている。そして各理事さんは地区に持ち帰り、各地区に伝えてもらい、それぞれが家庭に帰り、家庭・知人に少しずつでも広めれば、次の段階にいけるのではないかと思う。事務局にも引き続き御協力をよろしくお願いしたい。

【Q委員】

推進委員会に出席し、基本的な生活習慣や歯や運動についてこれまでも指導してきた。しかしたばこの教育についてはあまり取組めていなかったことがわかった。防府市は平成37年度に「将来たばこを吸いたい子ども」を0%にすることを目指しているが、子ども達の実態をつかんでみると、本校の調査では身近に吸っている人がいる子どもは7割であった。たばこを吸う場所が限られている中でそのような実態があるのだと、子どもの実態を把握することができた。実際に子どもにたばこの害や断る方法についての授業を実施し、指導したのだが、吸いたいかどうかを最後に計ったとこ

ろ、子どもの心の変容は、「わからない」を選んだ子は何人かいた。0%に向けて継続して指導することが大事だと実感した。この目標値を市内の養護教諭に広めて各学校で取り組めていければと思う。

【U委員】

公募委員であり、周知の場は自分の周囲や職場等と限られるが、1対1で伝えることが多い中で感じることは、たばこについても友人や夫に止めるように言っても、止められない理由をあげる。健診（検診）を受けるように言っても、行けない理由を言ってくる。人の意識を変えることはとても難しいということを感じた。引き続き周りに伝えていく時に、積極的に自分も変わっていかねばいけないと感じている。公募委員は私はさほど積極的になりたかったわけではなかったが、この機会を頂いて本当に良かったと思っている。もっと自分が変わらなければと思う人が増える方がいいと考えると、公募委員にいろいろな人に参加してもらう方がいいと感じた。最初はやりたくないと思っても、参加をすることによって意識が変わるのではないか、自分も意識が変わったので、そうではないかなと感じた。

～高齢世代～

【C委員】

防府薬剤師会では10月に事務局より計画の周知をしてもらった。その後を振り返り、毎月の例会の際に繰り返し周知をし、各会員が活かせるためにどうしたらできるかを話し合っていきたいと思う。

【E委員】

1月10日の定例会に事務局に来てもらい話を伺った。今までの定例会ではこういう機会がなかった。市の理事会でも私がこの推進委員会に参加していると報告していなかったため、理事会で話をしてもらい、各地区で話をしてもらえたことはよかった。これをこのまま終わらせるのではなく、継続して繰り返し民生委員児童委員の皆さんに、この計画の話をしながら、高齢者の関わりの中で、いきいきサロンの場で、健診（検診）等の話をしていくともっと周知できると思っている。今後更に周囲に広げていける状況にしたいと思う。

右田先生に歯と口の健康の話を伺い、まずうがいをして水を飲むことを、自分のために実践をしている。この話もいろいろなところでしていきたいと思う。

【F委員】

老人クラブの中で全体的に周知はできないが、身近な老人クラブや集会、いきいきサロンで皆さんと話をしている。健診については、すでにかかりつけ医師がいる人が多く、人間ドックの受診を伝えても関心がないのが残念だが、よい人間関係の中でお互いが情報交換をし、つながりの中でお互いに心身の健康を図っていけたらと思っている。

【N委員】

全職員の研修会で事務局に周知に来ていただき、その後のアンケートで職員だけでなく職員の家族にも周知ができたなど、いろいろな意見があり喜んでいました。しかし数か月後2～3人に声をかけてみると、「そういうこともあったよね」と、意識がなくなっていた。そのため、毎年何回も繰り返しが必要で、繰り返し情報発信をしないと意識が低下するだろうと思っている。そういうことができるポジションにいるため、職場で定期的に取り組んでいきたいと思う。

【T委員】

公募委員のきっかけは、小野地区活性化協議会の委員になり、小野地区の方の健康について考える部会に関係していたので、こちらにきて勉強したいと思い参加した。参加し、いろいろな情報を得ることができた。これからは活性化協議会を通して、また様々な団体や周りの人に知らせていきたいという思いがある。部会で、健康診断を「受けなきゃ損よ」という話があったが、情報など「知らなきゃ損よ、受けなきゃ損よ」と一生懸命伝えていきたいと思った。

【議長】

聞いていると、「繰り返し」や「継続」がキーワードとして多く意見があった。何度も何度も同じ話を目にしたり耳にしたり聞いたりすると、意識が変わっていくと思う。

働く世代の部会では、運動をしようという話が出た。例えばラジオ体操などをしてみたらどうだろうという意見があった。実際、保健センターでも朝礼の前にラジオ体操をしていると聞いたが、そのラジオ体操が「山口弁のラジオ体操」でとてもユニークだそうだ。急ではあるが、皆さんで身体を動かしてみたい。健康維持のために毎朝NHKの放送を見ながら体操をしている委員もいたが、たまには方言の全国各地のラジオ体操もいいのではないか。→山口弁のラジオ体操実施推進委員会や会議の前などにやるといいだろう。

【A委員】

今日各委員の発言を聞き、いくつか気づいたところがある。今回、部会で振り返ってみましょうということで、皆さんだいたい3以上をつけておられた。それも自身の取組と、組織の取組と両方の評価をされていて非常に感心した。「自身の経験を通して周りの人に伝えていくという経験が必要だ」という話も出ていたが、ご自身の経験も確かにとっても大きいですが、他の委員の体験も自身の経験の中に入れて伝えて頂けたらいいと感じた。また、「繰り返し継続して取り組んでいく」ということが話題になっていたが、日々の生活の中で健康づくりについて考えるのが難しいと思う。しかし取組をされる中で、住民の方々の反応が良かった所、びっくりしたこと、唾然としたところなど、どういうところについてそういう反応をされたのかや、なかなか反応がなくてどうなのかななどの反応について、ぜひ事務局に報告してほしい。また反応がよ

かったところについては、こういう伝え方をしたらよかったなど、皆さんの経験をぜひ事務局の方に集約していただきたい。そしてこのリーフレットやパンフレットを使ったらよかったなどという情報発信を、事務局からまたしてもらおうと、取組のアイデアも広がっていくのではないかと思う。各委員のせっかくの経験や知見を多くの方に共有してもらい、推進していくとよいと感じた。

欠席された委員さんには、1年間を振り返っての内容を伝えていただき、また来年度もみんなで一緒に取組んでいければよいと感じた。

【議長】

他になければこれで終わりたいと思うのですが。

【E委員】

高齢者世代の部会で人間ドックの話が出た。防府市老人クラブ連合会の西村委員からいいご発言があった。みなさんに聞いていただきたいので、ぜひお願いしたい。

【F委員】

人間ドックは非常に高価に思われるが、国民健康保険加入者については、防府市は約3,000円で受けられる。脳ドックやオプションをつけても約7,000円である。「安いから、受けなきゃ損よ」と伝えてほしい。ぜひ皆さんこの言葉を活用してみてはどうか。

(事務局)

今の発言は、国保の人間ドックのことである。30歳から74歳までの国民健康保険の加入者を対象としている。期間は3月末までであるのが、申込みは今年度12月28日までとなっている。希望の方があれば、積極的な周知をお願いしたい。

【議長】

人間ドックを実施する立場から言うと、マンツーマンで時間をかけて指導や問診が出来る。本当に「受けなきゃ損」である。

議事(5)

【事務局より】 健康マイレージについて、子育て応援室まんまるほうふについて

4 閉会